

## 第2章 令和4年中における自殺の概要

1 総数(表1関係)

令和4年中における自殺者の総数は21,881人で、前年に比べ874人(4.2%)増加した。  
性別では、男性が14,746人で全体の67.4%を占めた。

2 年齢階級別自殺者数(表2関係)

「50歳代」が4,093人で全体の18.7%を占め、次いで「40歳代」(3,665人、16.7%)、「70歳代」(2,994人、13.7%)、「60歳代」(2,765人、12.6%)の順となっている。

3 職業別自殺者数(表3関係)

「無職者」が11,775人で全体の53.8%を占めて最も多く、次いで「有職者」(8,576人、39.2%)、「学生・生徒等」(1,063人、4.9%)の順となっている。

4 原因・動機別自殺者数(表4関係)

原因・動機が明らかなもののうち、個々の要因別にみると、その原因・動機が「健康問題」にあるものが12,774人で最も多く、次いで「家庭問題」(4,775人)、「経済・生活問題」(4,697人)、「勤務問題」(2,968人)の順となっている。

注) 自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きている。

注) 令和4年に自殺統計原票を改正し、遺書等の生前の言動を裏付ける資料の他、家族等の証言から考えられる原因・動機も含め、自殺者一人につき4つまで計上することとしたため、原因・動機特定者数(19,164人)と原因・動機数の和が一致するとは限らない。